

中国地域半導体関連産業振興協議会 第4回会合 意見交換要旨

<人材育成・確保>

- ・高専の出前講座でのOBの体験談は、学生の反応が良く、満足される内容だった。(高専)
- ・文系人材の確保の観点からも大学連携を進めていきたい。(企業)
- ・インターンシップについては、大学と事前にすりあわせた上で、学生の習熟度にあわせたカリキュラムの設定が必要と感じた。カリキュラムを綿密にして詰め込みすぎると、学生にはハードルが高すぎるものになると感じた(企業)
- ・インターンシップについては、事前に自主学習時間などインプットの時間を学生のために設けると、より良くなるのではないかと感じた。(企業)
- ・インターンシップを実施することで、企業として認識していなかった改善点に気づくなどのメリットがあった。(企業)
- ・修士だけでなく、理系の学部生の一般教養講義にも裾野を広げ対応していく。文系向けにも経営の講義の中で半導体関連の講義を盛り込んでいく予定。インターンシップについても、引き続き力を入れていきたい。(大学)
- ・経営者とともに経営課題に取り組める人材が必要。優秀な人材の確保のため、地元限定しない採用にも力を入れ始めた。(企業)
- ・中国地域に移住して転職をしようとする際、仮に転職先でうまくいかなかった場合、産業が集積していることで、その後の転職活動が容易に感じる。家族がいる転職者等の移住を促すためには、移住を伴う転職への心理的ハードルを下げるためにも、この地域に産業が集積していることの情報発信も重要。例えば、作成した半導体産業の集積マップの発信も他地域に展開していただきたい。(企業)
- ・半導体人材の裾野拡大を目的に、「半導体×○○」の観点から地元企業と連携したイベントを小中学生向けに行っている。(企業)
- ・大学の研究室とのつながりが弱いことが課題。(企業)
- ・インターンシップ期間は一週間が限界。宿泊費の負担も社内での合意が大変。(企業)
- ・学生も企業も、インターンシップが採用を絡めたものという認識も変えないかぎり、いいインターンシップにならない。(企業)
- ・女性のエンジニアも求めている。ものづくりの現場では難しいところがあるが、勤務時間の弾力化等に取り組んでいる。(企業)

- ・学校では基礎的な学びを提供するのに対し、企業の出前授業では、学校での学びが現場でどのように使えるのかを教える点で意義がある。(高専)
- ・企業による出前授業では、学生も学ぶ目的が理解でき、モチベーションが上がると感じた。(高専)
- ・企業による出前授業では、企業からの講師が学校側と一緒に講義内容を組み立てると、負担も減ると思う。(高専)
- ・企業による出前授業では、企業がキャリアパスを学生に見せていくことが重要。(高専)
- ・企業による出前授業では、企業側にとっても、社員のリスクリングの場にもなりメリットがあると聞いた。(高専)
- ・学校側からは「どういう人材に育てたら良いか」と聞かれる。半導体分野は、中小中堅でもグローバルに戦う必要がある。企業独自でも社員教育を行うが、大学では先端的なことを、高専では基礎的なことを教えてほしい。(企業)
- ・教育現場への派遣も60歳以降の働き方の一つとすると、産学の交流も進むと思う。(企業)

<サプライチェーン強靱化・集積強化>

- ・技術交流会では、事前に面談する企業のリサーチができ、効率的に行うことができた。(企業)
- ・部素材だけでなく、メンテナンス等の周辺産業の集積も重要。(企業)
- ・近隣企業との連携は、輸送費の削減などコストメリットも生かせる上、地域のイノベーションにもつながる。(企業)
- ・技術分野を細分化した技術交流会をしても良いと思う。(企業)
- ・中国地域に、半導体に詳しいコーディネーターが必要。行政、第三者的機関が主体的に動くことが重要。(企業)
- ・初期投資に対しても、企業の方の声を聞きながら法整備等、対応いただきたい。(企業)
- ・部品の安定調達を強化する必要があり、サプライチェーンの構築が重要。(企業)
- ・技術交流会を通じ、社内の課題も抽出でき、多くの企業と接点を持つことができたので継続してほしい。(企業)

- 半導体産業は水平分業が進んでいるので、かなり細かい点でのビジネスマッチングが必要。(企業)
- 半導体産業のスパイラルアップには中小零細含め、国の補助、バックアップの強化が必要。(企業)
- 内部留保を活用し、スタートアップ等への投資で新しいビジネスの創出、サプライチェーン強靱化を進めたい。国内で深刻に進む事業承継問題についても、取り組んでいきたい。(企業)

以 上